

## 「 I have a dream. 」

### 1. 2025年大阪万博

11月24日に「2025年大阪万博」の開催が決まったという朗報が飛び込んで来たのです。大阪はオリンピックの誘致に失敗を続けていたので今回も恐らくダメだろうという感じでしたので、いわゆる想定外の慶事になったのです。7年後、私は76才になっていますが、確率的には元気になると期待できる年頃です。孫たちも中学生や小学生になっているだろうし、会社も創業30周年の記念年に当たるのです。経済環境的には好転するという希望的観測をベースに前向きな「夢」を持ちたいと思います。



右掲は、米国の人権活動家のキング牧師で「 I have a dream. 」という有名な演説で覚えておられる方も多いと思います。「私には夢がある」と語る事はなかなか難しいもので、「人」+「夢」=「儂」つまり「人の夢は儂い」と言われるのですが、反面、「夢」が持つ精神的エネルギーは量り知れないものがあります。例えば、家族旅行でディズニーランドへ行こうと計画するだけで、その間に行う準備で家族全員が楽しいのです。本当に「夢」の重要性を痛感します。

しかしながら、「夢」は実現しないと無意味なので、実現する為に何をすることが重要なポイントです。私の場合、今年7月に満70才になります。毎月、給料で支払っている厚生年金はなくなり、健康保険だけになります。その健康保険も75才で後期高齢者の保険に切り替わるという年齢的な節目が近づいて来ます。そんな環境的変化があっても「健康寿命」という言葉があるように、精神的にも肉体的にもイキイキと生活したいのは万人の望みです。その為に、健康がベースなので「頭」を使い「胸」で気遣いをし「足」で元気に歩き回れることが大切です。

### 2. 「希望」≡ Σ (身近な夢)

私は、5年前に妻に先立たれているので日常生活を自分でする事が大事であり、衣食住に追われる感じています。しかし、幸いな事に「文明の利器」に恵まれているので、家事に追われるという点では随分軽減されています。例えば、「炊事・洗濯・掃除」と言いますが、ご飯は自動炊飯器でタイマーで炊けますし、おかずも最近「電気圧力鍋」を買って「おでん」や「肉じゃが」などもタイマーで炊けるようになっていました。残念ながら、「掃除」はロボット掃除機ではないので、自分で掃除機をかける必要があり、定期的に行う位です。それよりも「片付け」が大変ですね。炊事でも後片付け、掃除でも後片付けが基本なので、これを嫌がらずに行うようにしています。

こんな風に「炊事・洗濯・掃除」というベースを確立して習慣化しているので、日常生活がマンネリ化しない事が大切です。「百歳現役」という大きな夢を掲げていますが、それを実現する為に小さな身近な夢を連続して実現して精神的にイキイキしている事がポイントになります。身近な夢、つまり、多くの方は老夫婦で余生を楽しむという事で旅行や食事などを描く訳ですが、私の場合、相手がいないので別な夢を描く必要があるのです。前号でサミュエル・ウルマンの詩から導き出した「若さ」=「信念」x「自信」x「希望」と京セラの稲盛さんの「成果」=「考え方」x「情熱」x「能力」をご紹介します。「考え方」を前向きにする事が大切と書きました。その為に「希望」が大きな要素と書いています。従って、「希望」≡ Σ (身近な夢)と連続して経験を積み上げて行く事がポイントになるのです。

まずは、2025年大阪万博が身近な夢のシンボルなのです。孫たちも中学生位になっていますので、万博やUSJと一緒に楽しみたいと思います。その時は76才ですが、楽しめるように健康に心掛けたいと思います。まずは、肉体的に歩ける事が重要なので、足腰の鍛錬を兼ねて日

常生活の中で少し遠回りしながら20分程度のウォーキングを繰り返して1日6キロを心がけています。また、2025年は会社が創業30周年になりますので、今から資金を蓄えて記念事業が出来れば良いと思いますし、三男が自立して事業を始めるのも良いと思っています。

### 3. 「事業」と「運動」

「I have a dream.」と言っても実現させる手段と方法がポイントになります。大きな夢は「宝くじ」に当たらない限り、殆どの場合、一足飛びに達成する事は難しいものです。よく「塗り絵」に喩えるのですが、「夢」は「輪郭線」でしかないのです。全体を思い浮かべながら色を塗って行く訳ですが、塗りが進むほどに違和感が大きくなるように、現実の「夢」も幾らΣ(身近な夢)と言っても時間の経過とともに背景が変わって行くのでズレを修正するのに相当な努力が必要になります。

よく、「事業と運動」と言うのですが、「運動」、例えば、「美化」では最初のうちは美化する事が目に見えて実感できるので楽しい面もあるのですが、それを繰り返すと変わり映えしなくなり精神的な面で「やらされ感」が強くなって行くのです。逆に、「事業」なら期間もある程度決まっており、役割分担も明確化されるので参画しやすいのです。身近な所では、家族旅行が良い例であり、実施期間を決めるので準備も進め易いのです。

「I have a dream.」においても事業的な「夢」を描く、つまり、いつまでに「何」をするかを具体的に描く事の積重ねが重要なのです。それが「身近な夢」≒「イベント」になって行くのです。「イベント」ですから、いつまでに「何」を実現しようと旗を振り、周囲を巻き込んで行く事が重要なのです。この「巻き込む」という事が重要なポイントとなります。

### 4. 具体的なイベント

弊社の場合、2025年に迎える「創業30周年」に向けて準備を始める事がポイントと考えています。幸いにも三男の事業が自立化を始めています。IT業界は日進月歩の世界で先端を追うと目まぐるしく変化して行くので追随するだけでも大変な労力が必要になりますが、お客様の層を身近なところに置くと必ずしも最先端である必要がないのです。三男はVBAを駆使してお客様のニーズに対応していますが、VBAならばマイクロソフトのベーシックな言語なので普遍性を保てると思っています。この言語でいろんなケースのお客様に対応して、いわゆる「部品」づくりで経験を積む事が最優先課題になっています。

幸いにも、身近なお客様でソフトづくりをしていますので、一つずつお客様のトータル業務をこなして行く事で「自信」と「信念」が高まります。サミュエル・ウルマンの「青春」という有名な詩から「若さ」=「自信」x「信念」x「希望」と導いています。が、「自信」と「信念」の深まりで「希望」が湧き、その結果、「若さ」がにじみ出てくると考えています。つまり、ベースのお客様のシステムを次々と仕上げて行く事が重要になります。

そして、7年後、三男も38才になるので、個人的には「家庭」を持つ事になるだろうし、会社では、事業拡大で人を雇うようになり、新事務所が必要になると思います。こうなると私は家庭では一人住まいになり、会社では現事務所総務経理の仕事をする事で支援できるようになると考えています。弊社のビジネス・モデルは「経営コンサル」x「デザイン」x「システム」の三位一体なので、お客様が増えれば、デザインの分野も拡大すると期待できます。「経営コンサル」は責任の重い仕事なので、当分の間、ご縁のあるお客様に絞って、私が貢献して行きたいと思っています。こんな風に考えるとワクワクしますが、現実のプロセスでは山あり谷ありの連続だと思いますので、挫けずに「着実・前向き・具体的」でやって行きたいと思っています。